

労働災害の約8割は、停車時に発生

停車中の危険は、すぐ側に

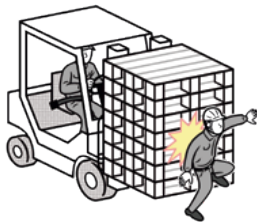
パレット運搬時、フォークリフトによる災害編

労働災害(陸上貨物運送事業における死傷災害)は、約8割が荷役作業中、つまり「車両が停車している時」に発生しています。今回は、車両から降ろしたパレットをフォークリフトでまとめて運ぶ際に発生した災害事例および対策を紹介します。

災害例

フォークリフトにパレットを高く積んで走行中、歩行者に接触した

パレットを高く積んだフォークリフトを運転していた時、前方を歩く作業員に接触し負傷させた。



原因

- フォークリフトのフォークにパレットを高く積み過ぎ、前方が見えにくく作業員に気が付かなかった。
- 作業員が歩行者立ち入り禁止エリア内を歩いていた。

対策

- 〈フォークリフトの運転者〉
- 前が見えにくい時は、周囲の安全を確かめながらバック走行をして視野を広くとる。
- 〈作業員・作業環境〉
- フォークリフトの稼働中は歩行者立ち入り禁止エリアに入らない。
 - フォークリフトの近接が容易に分かるように、フォークリフトに警告音や回転式警告灯を設置する。